

クロステックフィールドジャパン 災害想定、ドローンで運搬

各務原市、関市と協定



協定書を取り交わした(左から)山下清司関市長、平野祐也社長、浅野健司各務原市長＝各務原市テクノプラザ、テクノプラザ

ドローンの空路開拓や社会実装を手がける「クロステックフィールドジャパン」(各務原市)と関市、関市が連携協定を締結した。

今月27日には災害時を想定し、ドローンを使って中日本航空専門学校(関市)からテクノプラザ(各務原市)までの約6キロで飲料水を運

搬する実証実験を行う。式典は各務原市テクノプラザのテクノプラザ本館で行われた。関市の山下清司市長は「災害時に市内で孤立するとみられる集落は91あり、県内で最も多い。次世代の高度技術に期待した

い」、各務原市の浅野健司市長は「能登半島地震では道路が分断された。空路の活用は重要。新技術の開発と発展は今後の日本に重要で、協定は先進的な事例になる」と述べた。

協定は同社が両市に働きかけて実現した。県議で同社の平野祐也社長は「岐阜県の空、日本の空をつなぎ、具体的にドローンなどを社会に実装する道をつくりたい」と意気込んだ。

(松田尚康)